

○もも⇒穿孔細菌病 ○なし⇒黒星病 ○りんご⇒腐らん病
発生状況をよく確認の上、発病している場合は耕種的防除を必ず実施し薬剤散布を行って下さい。
【散布時間帯については、早朝5時以降開始にご協力ください。また、通勤や通学の時間帯も避けてください。】

※不明の点等ございましたら、担当営農指導員にお問い合わせください。

●今回の防除情報については下記の内容にてお知らせさせていただきます。なお、防除内容の確認を行い作成しておりますが、皆様におかれましても防除の際には、防除暦を参照するとともに使用農薬に記載されている希釈倍数等の内容を必ず確認してください。

【もも】(防除暦 27～29頁参照)

注意事項:展着剤は、各樹種共通でアイヤーエース10,000倍(10cc)又はラビデン3S 10,000倍(10cc)を使用する。

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)		SS 散布量
7	5/30頃	せん孔細菌病・黒星病 灰星病・果実赤点病 モモハモグリガ・ハマキムシ類 アブラムシ類・シンクイムシ類 (カイガラムシ類)	合ピレ剤使用可能地域		300ℓ
			合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)		
			1. ICジンク 1,000倍 (100g)	1. ICジンク 1,000倍 (100g)	
			2. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g)	2. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g)	
			3. フェニックスフロアブル 4,000倍 (25cc)	3. サイアノックス水和剤 1,000倍 (100g)	
		1. カイガラムシ類、アブラムシ(コフキアブラムシ)の発生が多い場合はトランスフォームフロアブル2,000倍(50cc)も散布する。 2. サイアノックス水和剤は収穫前21日なので、早生種には注意する。			
※灰星病・ホモブシス腐敗病の重要防除期に入るので、ムラなく散布すること。 ※せん孔細菌病・すすかび病・果実赤点病の感染期に入るので、有袋栽培の場合は散布後すみやかに被袋すること。					
8	6/10頃	せん孔細菌病・黒星病・灰星病 ホモブシス腐敗病・果実赤点病・すすかび病 (カメムシ類)(シンクイムシ類) (モモハモグリガ)(ハマキムシ類) (カイガラムシ類)	1. 展着剤		300ℓ
			2. マイコシールド 2,000倍 (50g)		
			3. ダコレート水和剤 1,000倍 (100g)		
		1. モモハモグリガ、カメムシ類、シンクイムシ類、カイガラムシ類の発生が多い場合は、スミチオン乳剤1,000倍(100cc)も使用する。 ②マイコシールドは収穫前21日なので、早生種(はつひめ・日川白鳳・暁星)はマイコシールドにかえて、デランフロアブル(収穫前7日)600倍(165cc)を使用する。			
9	6/20頃	黒星病・灰星病・ホモブシス腐敗病 果実赤点病・すすかび病(せん孔細菌病) シンクイムシ類・モモハモグリガ ハマキムシ類・コガネムシ類(ハダニ類)	1. 展着剤		300ℓ
			2. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g)		
			3. ヨーバルフロアブル 1万倍 (10cc)		
		1. せん孔細菌病の発生が見られる園では、バリダシン液剤500倍(200cc)も使用する。なお、菊の隣接園ではバリダシン液剤に替えてスターナ水和剤1,000倍(100g)を使用する。但し、両剤とも早生種には使用しない。 2. 合ピレ剤使用規制地域では、ヨーバルフロアブルを使用しないこと。 3. ハダニ類の発生が見られる場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍(50cc)も使用する。なお、卵には効果がないので、今回散布5～7日後にも散布する。散布の際は展着剤は使用しないこと。梨の隣接園では飛散しないよう注意する。			
10	6/30頃	灰星病・ホモブシス腐敗病 果実赤点病・すすかび病 シンクイムシ類・モモハモグリガ アブラムシ類(せん孔細菌病)	合ピレ剤使用可能地域		300ℓ
			合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)		
			1. 展着剤	1. 展着剤	
			2. ナリアWDG 2,000倍 (50g)	2. ナリアWDG 2,000倍 (50g)	
			3. アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g)	
		1. せん孔細菌病の発生が見られる園ではデランフロアブル600倍(165cc)も使用する。但し、早生種には使用しない。 2. ナリアWDGはピオーネ、ル・レクチェに薬害を生ずる恐れがあるので、注意して散布する。			

【りんご】(防除暦 52～54頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)		SS 散布量
今回以降、褐斑病、輪紋病、炭そ病等の重要防除時期に入るので、10a当り500ℓ、また散布間隔を10日以上あけずムラなく散布すること。					
6	6/8頃	斑点落葉病・輪紋病 黒星病・褐斑病・炭そ病 アブラムシ類 リンゴワタムシ・カイガラムシ類	1. アビオンE 1,000倍 (100cc)		500ℓ
			2. オキシラン水和剤 500倍 (200g)		
			3. トランスフォームフロアブル 2,000倍 (50cc)		
		【カルシウム剤】			
7	6/18頃	斑点落葉病・黒星病・輪紋病 すす点・すす斑病・褐斑病 うどんこ病・モニリア病 (クワコナカイガラムシ)(リンゴワタムシ) (カメムシ類)(ハダニ類)	1. アビオンE 1,000倍 (100cc)		500ℓ
			2. オーソサイド水和剤 600倍 (165g)		
			3. ユニックス顆粒水和剤 2,000倍 (50g)		
		【カルシウム剤】			
		1. クワコナカイガラムシ、リンゴワタムシの発生が多い場合はサイアノックス水和剤1,000倍(100g)も使用する。ただし、使用回数年1回なので注意すること。 2. ユニックス顆粒水和剤は、オウトウに対しては薬害を発生するおそれがあるので、付近にある場合はかからないように注意する。 3. ハダニ類の発生が多い場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍(50cc)も使用する。但し、アビオンEは使用しない。また、今回散布後5～7日後にも散布する。但し、展着剤は使用しない。また、アカリタッチ乳剤は一番最後に混用する。			
8	6/28頃	斑点落葉病・輪紋病・褐斑病 炭そ病・黒点病・黒星病 すす点・すす斑病 シンクイムシ類・キンモンホソガ アブラムシ類・ハマキムシ類 カメムシ類・(ヒメボクトウ)	合ピレ剤使用可能地域		500ℓ
			合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)		
			1. アビオンE 1,000倍 (100cc)	1. アビオンE 1,000倍 (100cc)	
			2. キノドー顆粒水和剤 1,000倍 (100g)	2. キノドー顆粒水和剤 1,000倍 (100g)	
			3. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g)	3. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g)	
			4. アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	4. オリオン水和剤 1,000倍 (100g)	
		1. ヒメボクトウの発生が多い園では、フェニックスフロアブル4,000倍(25cc)を枝幹部に散布する。			

【 な し 】 幸水・豊水・あきづき・秀玉・新高・王秋等 (防除暦81頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
8	6/6頃	輪紋病 黒星病 (アブラムシ類)	1. 展着剤 2. オキシラン水和剤 500倍 (200g)	300ℓ
		1. アブラムシの発生が多い場合は、ウララDF4,000倍(25g)も使用する。		
※梅雨期に入り降雨が長びく場合、例年輪紋病、黒星病の発生が多い園では、今回以降梅雨明けまでの散布を7日間隔とする。ただし、薬剤の使用回数に注意する。				
9	6/16頃	輪紋病・黒星病 (ハマキムシ類) (シャクトリムシ類)(ケムシ類)	1. 展着剤 2. ナリアWDG 2,000倍 (50g)	300ℓ
		1. ハマキムシ類、シャクトリムシ類、ケムシ類の発生が多い場合は、バイオマックスDF2,000倍(50g)も使用する。 2. ナリアWDGは、ピオーネ、ル・レクチェに薬害を生ずるおそれがあるので注意して散布する。		
10	6/26頃	輪紋病・黒星病 シンクイムシ類・アブラムシ類 カイガラムシ類	1. 展着剤 2. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g) 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g)	300ℓ
		1. ベルクート水和剤は、ル・レクチェにさび果を生じるので、かからないよう注意する。 2. オウトウの隣接園では、かからないように注意する。		

【 な し 】 二十世紀・南水 (防除暦89～90頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
8	6/6頃	黒斑病 黒星病 (アブラムシ類)	1. 展着剤 2. オキシラン水和剤 500倍 (200g)	300ℓ
		1. アブラムシの発生が多い場合は、ウララDF4,000倍(25g)も使用する。		
9	6/16頃	黒斑病・黒星病 (ハマキムシ類) (シャクトリムシ類)(ケムシ類)	1. 展着剤 2. ナリアWDG 2,000倍 (50g)	300ℓ
		1. 今回散布後、できるだけ早く大袋掛けを行う。 2. ナリアWDGは、ピオーネ、ル・レクチェに薬害を生ずるおそれがあるので注意して散布する。 3. ハマキムシ類、シャクトリムシ類、ケムシ類の発生が多い場合は、バイオマックスDF2,000倍(50g)も使用する。		
10	6/26頃	黒斑病・黒星病 シンクイムシ類 カイガラムシ類・アブラムシ類	1. 展着剤 2. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g) 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g)	300ℓ
		1. ベルクート水和剤は、ル・レクチェにさび果を生じるので、かからないよう注意する。		

【 ぶ どう 】 (防除暦 126～127頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
6	6月上旬頃 満開後	灰色かび病・黒とう病・べと病 晩腐病・褐斑病・さび病 アザミウマ類・フタテンヒメヨコバイ カイガラムシ類	1. ストロビードライフロアブル 2,000倍 (50g) 2. モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	200ℓ
		晩腐病感染防止対策として、紙傘かけを実施する。		
7	6月中旬頃 幼果期	黒とう病・晩腐病 褐斑病・灰色かび病 チャノキイロアサミウマ クビアカスカシバ・コガネムシ類	1. ミギワ20フロアブル 2,000倍 (50cc) 2. テツパン液剤 2,000倍 (50cc)	200ℓ
		1. 今回の散布時期は、果粒が小豆程度以下の大きさで散布する。 2. 種なし品種については第2回目ジベレリン処理前に散布する。		
8	6月下旬頃	晩腐病・褐斑病 黒とう病・べと病 (チャノキイロアサミウマ)(カイガラムシ類)	1. ホライズンドライフロアブル 2,500倍 (40g)	200ℓ
		1. チャノキイロアザミウマ、カイガラムシ類の発生が多い場合には、コルト顆粒水和剤3,000倍(33g)も使用する。		

【おとう】(防除暦 146~147頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
7	収穫直前 (6/5頃)	灰星病 オウトウシヨウシ`ヨウハ`エ ハマキムシ類	1. ロブラール500アクア 1,500倍 (65cc) 2. ディアナWDG 1万倍 (10g) 2. まくぴか 5,000倍 (20cc)	300ℓ
8	6/15頃 (晩生種)	灰星病 オウトウシヨウシ`ヨウハ`エ	1. インダーフロアブル 5,000倍 (20cc) 2. アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g) 3. まくぴか 5,000倍 (20cc)	300ℓ
特別散布	6月下旬~ 7月上旬 (極晩生種)	オウトウシヨウシ`ヨウハ`エ (灰星病)	1. スカウトフロアブル 3,000倍 (33cc) 2. まくぴか 5,000倍 (20cc) 1. 降雨が続く場合は、灰星病対策としてロブラール500アクア1,500倍(65cc)も使用する。	300ℓ
9	収穫終了直後	褐色せん孔病 アメリカシロヒトリ ハマキムシ類	1. 展着剤(ラビデン3S) 2. チオノックフロアブル 500倍 (200cc) 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g) 1. ケムシ類(アメリカシロヒトリ)の発生が多い場合は、ダイアジノン水和剤にかえてフェニックスフロアブル4,000倍(25cc)を使用する。	500ℓ

【かき】(防除暦 157頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
3	落花直後 (6/5頃)	炭そ病・すす点病 うどんこ病・落葉病 アザミウマ類・カイガラムシ類 カメムシ類・(ハマキムシ類)	1. 展着剤 2. フルーツセイバー 1,500倍 (65cc) 3. モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g) 1. 合ピレ剤使用規制地域では、モスピラン顆粒水溶剤にかえて、ダイアジノン水和剤1,000倍(100g)を使用する。	400ℓ
4	6/20頃	落葉病・イラガ類 カメムシ類・フジコナカイガラムシ アメリカシロヒトリ・(アザミウマ類)	1. 展着剤 2. チオノックフロアブル 500倍 (200cc) 3. スミチオン乳剤 1,000倍 (100cc) 【落葉病、重要防除時期】 1. 前年、カイガラムシ類、アザミウマ類の発生が多い園では、コルト顆粒水和剤3,000倍(33g)も使用する。	400ℓ

【すもも】(防除暦 169頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
6	6/10頃	炭そ病 モモノゴマダラノメイガ アブラムシ類・シンクイムシ類	1. 展着剤 2. ストロビードライフロアブル 2,000倍 (50g) 3. バリアード顆粒水和剤 4,000倍 (25g) 1. 合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)では、バリアード顆粒水和剤にかえてオリオン水和剤1,000倍(100g)を使用する。	300ℓ
7	6/20頃 (大石早生収穫直前)	灰星病 (ハダニ類)	1. ロブラール水和剤 1,500倍 (65g) 1. ハダニ類の発生密度が低い時期に今回以降ダニゲッターフロアブル2,000倍(50cc)も使用する。	300ℓ
8	6/30頃	灰星病 シンクイムシ類	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50cc) 2. スカウトフロアブル 2,000倍 (50cc) 1. 合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)では、スカウトフロアブルにかえてオリオン水和剤1,000倍(100g)を使用する。	300ℓ

【うめ】(防除暦 179頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
特別散布	収穫直前 6月上旬 (高田梅)	黒星病 灰色カビ病	1. 展着剤 2. インダーフロアブル 5,000倍 (20cc)	350ℓ

【ネクタリン】(防除暦 190頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
7	6/1頃	黒星病・せん孔細菌病 ハマキムシ類 モモハモグリガ・シンクイムシ類	1. チオノックフロアブル 500倍 (200cc) 2. マイコシールド 2,000倍 (50g) 3. フェニックスフロアブル 4,000倍 (25cc)	300ℓ
8	6/11頃	灰星病・黒星病・シンクイムシ類 ハマキムシ類・アブラムシ類・カイガラムシ類 (せん孔細菌病)	1. 展着剤 2. ダコニール1000 1,000倍 (100cc) 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g) 1. せん孔細菌病の発生が見られる園では、スターナ水和剤1,000倍(100g)も使用する。	300ℓ
9	6/21頃	灰星病・黒星病・ホモプシス腐敗病 (シンクイムシ類)・(ハマキムシ類)	1. 展着剤 2. ベルクートフロアブル 1,500倍 (65cc) 1. シンクイムシ類及びハマキムシ類の発生が多い場合は、ダイアジノン水和剤1,000倍(100g)も使用する。但し、早生種には使用しない。	300ℓ

※表中の日付は果樹研究所(飯坂町平野)を基準にしております。各園地との差異を考慮して、適期防除に努めてください。

★農薬散布は、無風又は風の弱いときに行うなど、近隣に影響の少ない天候の良い日を選んで散布しましょう。散布時間帯についても通学や出勤時間帯は避け、住宅地に隣接している園地では十分注意して散布をお願い致します。